

最近の症例から(10) ラバーベース印象材によるアレルギー性口内炎

長谷川貴史, 藤本勝彦

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者: 41歳, 女性

主訴: 口腔内違和感

家族歴: 特記すべき事項なし

既往歴: 昭和35年, 虫垂炎にて手術を受けた以外に特記すべき事項なし

現病歴: 本学補綴科にて, ラバーベース印象材による747部の印象採得後, 同部周囲の歯肉, 頬粘膜及び, 口腔底粘膜等に違和感を生じ, その後, 同部粘膜に腫脹, 灼熱感を覚えるとともに, 軽度の嚥下困難, 呼吸困難を認めたため(舌が咽頭に接触するような感覚があったとのこと)翌日当科を受診した。

現症: <全身所見> 体格中等度, 栄養状態良好。
<局所所見> 顔貌所見は, 両側頬部からオトガイ部にかけて浮腫を認めた。顎下リンパ節は, 左右

ともに拇指頭大一個づつを触知, いずれも可動性で圧痛を認めた。口腔内所見としては, 747部歯肉, 頬粘膜にびまん性腫脹を認めた。また, オトガイ部皮膚及び舌には, 知覚異常が認められた。
(写真1)

臨床診断: アレルギー性口内炎

検査所見: ラバーベース印象材による過敏症が疑われたため, ワセリンをコントロールとし, シリコン基剤, ラバー基剤, ラバーキャタリスト, ラバー基剤・キャタリスト混合についてパッチテストを施行し, その結果, ラバー基剤, ラバーキャタリスト, ラバー基剤・キャタリスト混合にて, 膨疹及び発赤が認められ, 陽性と判定された。(写真2)

処置: 抗アレルギー剤の静注及び内服。



写真1: 口腔内写真

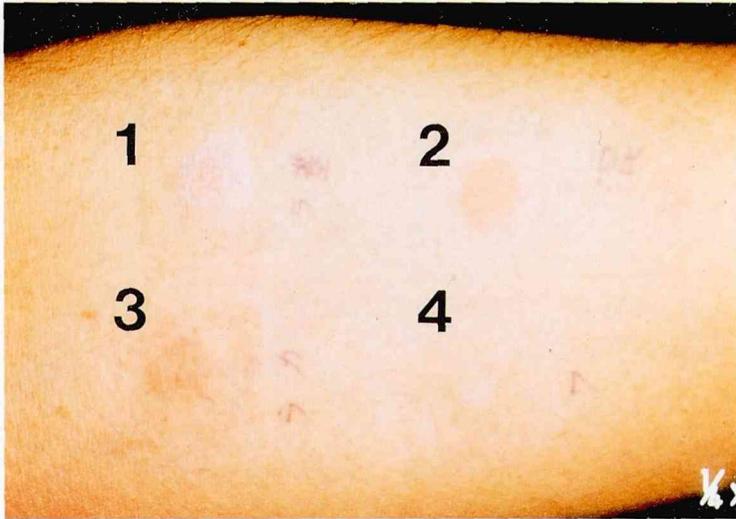


写真2：パッチテスト所見（前腕部）

- 1：ラバー基剤
- 2：ラバー基剤・キャタリスト混合
- 3：ラバーキャタリスト
- 4：ワセリン